白山神社前にあった白山橋と芸妓（新潟名所絵はがき）

白山神社と境内が今の場所に定まったのは、17世紀半ばといわれています。江戸時代には境内に商人の藏があり、白山堀（後の一番堀）から米や商品を運んでいました。神社の祭礼はとてもにぎわい、芸妓達もお参りをしながら衣裳を競いあったといいます。文政2（1819）年に甘泉（かんせん＝結城利之：生年不明～1857年）が著した江戸時代の洒落本「新かた後の月見」には、着飾って白山神社へ向かう芸妓とそれを見る町衆のようすが描かれています。

甘泉「新かた後の月見」

明治維新後、新潟県令楠本正隆（1838～1902年）は開港五港の都市・新潟町に開化政策を実施。その一環として、日本最初の都市公園のひとつ・白山公園が整備され、日和山と並ぶ二大名所となります。

大船絵馬

「美由紀賀岡（みゆきがおか）」に建つ楠本正隆の銅像と、楠本正隆と白山公園の解説がある公園の歴史案内板

みなとまち新潟を代表する名所

白山神社と白山公園

白山神社は、新潟の町衆やみなとを訪れる人たちの深い信仰を集めてきました。神社や公園を歩くと、人々の願をさまざまなかたちで見ることが出来ます。

神社拝殿には、新潟湊に集まった各地からの年貢米を回船に積み込んで、江戸・大坂へ向けて送り出すようすを一面に描いた「大船絵馬」（作・井上文昌：1818～1863年・県指定有形民俗文化財）があります。嘉永5（1852）年に豪商・市島家が、年貢米輸送の安全を祈って奉納したものです。

また、拝殿の手前には「奉　為海上安全　尾道石工山城屋惣八作」「献　安政三年丙辰六月日　宿近江屋利右衛門客弁中」と刻まれた鳥居があります。回船問屋・近江屋の客となった船主や船頭が、海上安全を願ってはるばる尾道からこの鳥居を運んで寄進したのでしょう。

白山公園内の住吉神社左脇にある築山の門柱には、「新潟市廓（くるわ）一同」と刻まれていて、花柳界からの信仰を知ることができます。

尾道の石工の名が刻まれている鳥居（上）と神社拝殿（下）

明治16（1883）年、白山公園に隣接して建てられた新潟県会議事堂（現在の県政記念館）は、ロンドンのテムズ河畔に建つイギリス国会議事堂を意識したそうですが、当時の写真を見るとなるほどとうなずけます（写真上：手前は信濃川）。明治前期に建てられた議事堂では現存する唯一のもので、国指定重要文化財になっています。

白山神社前から見た古町通。左の写真は大正～昭和初期のもの。右は2009年のアーケード工事中のものです。赤い線をひいた建物が、同じ位置に残っているのがわかります

上（カミ）の古町、通称カミフル。昔からの商店街に個性的な店を開く若い人たちが加わって、新しい魅力の発信地になっているチャリよ。

古いものと新しいものが出会う町

古町通1～4番町

※小路の番号は地図記載の番号です。

1 ピンチャン小路（げんちゃんこうじ）：江戸時代の絵図にはなく、明治になってできた小路。その名には、小路のゆはどに鍛冶屋があって、そこを通るといつも金槌の音が聞こえたことからその音をもじったという説と、古町通と小路の角にピンチャンというあだ名の鍛冶屋が住んでいたという二つの説がある。

5 丁持小路（ちょうもちこうじ）：昔、舟の荷役をする小揚人足が住んでいたので、小揚小路と呼ばれていた。明治以降、小揚人足に変わって丁持（荷物の運送屋）の仕事をする人が多くなり、丁持小路と呼ばれるようになった。

ステキ♥な路地もたくさんあるカミフル。左上は超願寺小路って呼ばれてるところだよ。

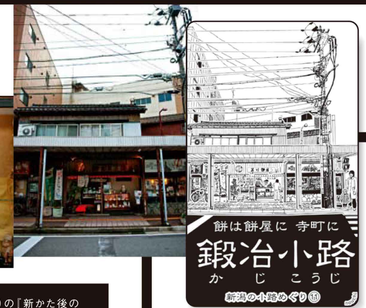
7 新川小路（しんかわこうじ）：初めは平兵衛小路という上大川前通と東堀の間の小路であったが、そこに新川が掘り割られた。幕末までには埋め戻されて道になり、明治になって西堀まで延長された。堀であった時の名が使われている。

そのランドマーク、考古堂書店の良寛さんの壁画には「書物を読んで道を楽しむ」「心のオアシスああ良寛さま」と書かれてます。

良寛さんの作といわれている戯れ歌が笹川餅屋さんの店頭に飾ってありますので、探してみてくだされニャ。

酒は酒屋に 魚は納屋に
新潟女郎しょ（衆）は
寺町に

面白い歌だニャー。



●新津屋小路に続く

甘泉（結城利之：白山神社の項参照）の「新かた後の月見」には、新潟の芸妓や花街が多く描かれています。その中の1枚「寺町の図」には、寺町川（後の西堀）をはさんだ向かいのお寺を前にくつろぐ花街の女性の姿があります（右）。新潟の花街の発祥の地は現在の古町通4番町西側の「中道」という所で、そこから寺町通（現在の西堀前通）へ広がっていったといいますから、こうした風景は日常的にあったのでしょう。もしかしたら、良寛さんもこんなようすを見たかもしれませんね。

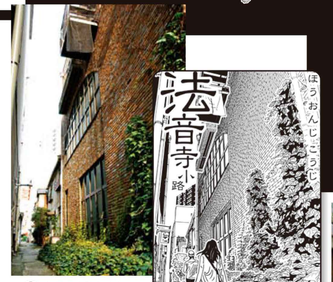
甘泉は筑紫の人ですが新潟で没し、法音寺にお墓があります。

11 鍛冶小路（かじこうじ）：鍛冶屋ではなく、屋号か姓から付いた小路名と思われる。上大川前通と西堀の間の小路であったが、現在はその延長上の道も鍛冶小路と呼ばれている。明治の町名改正では横二番町通と改められた。

「新かた後の月見」寺町の図
※これは「五六全図」と歌われた現在の古町通8-9番町辺りの風景

3 眞浄寺小路（しんじょうじこうじ）：小路の隣に妙覚寺があり、古い絵図には妙覚寺小路と記されている。西堀の眞浄寺に通じる小路でもあったため、眞浄寺小路と呼ばれるようになったと思われる。

8 権現小路（ごんげんこうじ）：江戸時代、古町には熊野権現社があり、権現社と東堀の間の小路は権現小路と呼ばれていた。その後、この小路につながる東堀と上大川前通の間の由右衛門小路も権現小路と呼ばれるようになった。



9 法音寺小路（ほうおんじこうじ）：西堀の法音寺に通じる小路なので、この名がついたと思われる。西堀の寺院の名を付けた小路はほかに上の眞浄寺小路がある。

楽しげな花街と厳粛なお寺が堀を挟んで向かいあうさまを、水原の医師・三浦鳴村（きゅうそん）という人が漢詩にしています。

東頭ハ娼戸西頭ハ寺（東はお茶屋で西は寺）
一水中分又両種ノ情（女の情と仏の情、それを区切るのが西堀だ）
楽土ハ知ラズ真ニ孰レカ是ナルヲ（極楽浄土はどっちかな）
歌声ヲ接ズレバ読経ノ声ニ接ス（いやはや歌声とお経の区別がつかぬ）

情景がうかんできそうですね。（　）の中に記載した意訳は、新潟市郷土資料館初代館長の池政栄さん（故人）によるものです。
（『人生は走馬燈』池政栄著：新潟日報事業社刊より）

法音寺（左）と甘泉の墓（中）。右は、足駄屋町（今の本町通1～4）の職人たちが道しるべに建てた6体のお地蔵さんを再建した「道教えバ地蔵」